

ご褒美と儉約のバランス

イー・ウーマン調査「ご褒美と儉約のバランス調査」
<http://www.ewoman.co.jp/>

街ではクリスマス・ツリーのイルミネーションが輝き始め、そろそろ年末のボーナスを意識し始める人も出てきたであろう10月末に、イー・ウーマンリーダーズの消費意識を探るべく、生活の中でお金をかけている分野や「ご褒美消費」について調査を行った。

■自分づくりへの出費は積極的

生活の中のいくつかのエリアを挙げた上で、それぞれのエリアについてお金をかける比重を聞いたところ、「自分の教育費」「旅行」の2エリアは全体の約25%が、「ふだんの食費」も20%の人が「かなりお金をかけている」と回答した(グラフ1)。2003年5月にイー・ウーマンリーダーズに「自分の仕事や将来に役立てるために特別に勉強しているか」という質問をした時に半数以上がYesの回答であったが、実際にお金の配分でも教育費に比重をかけていることがわかった。また、美味しいものを食べて楽しむだけではなく食の安全性にも関心が高いリーダーズたち、例えば価格が高くて「安全な食品」を買いたいため、結果として食費の比重が高くなっているようだ。

生活の中でお金をかけていることを具体的に聞くと「自分自身を内面・外面的に磨くため」に自分への教育・文化投資、美容・ファッション関係にお金をかけている人、「自分が気持ちよく、楽しい時間を過ごすため」の趣味や旅行、おいしい食事を楽しむ人、「健康に暮らすため」の安全な食品、リラクゼーション関連、スポーツやサプリメントなどへの出費をいとわない人、「長く使える質のよいものを持ちたい」ために出費をする人、子供の教育費や家族で共通して使う費用など、家族中心のことがらにお金を費やしている人、「人が財産なので」交際費は惜しまないなど、個人のライフスタイルや価値観に合わせて様々にお金をかける分野を選んでいるが、総じて言えるのは長期的視野に立って「自分(もしくは家族)をつくりあげていくこと」にお金を費やしていることであろう。

■ベーシックな出費は極力抑えて

一方、生活の中で儉約度が高いエリアは「日用雑貨」「通信費」で、半数以上が「極力儉約」という回答であった(グラフ1)。生活の中で節約を心がけていることを具体的に聞いた中でも「水道・光熱費」との回答が多く見られ、日々の生活を送るのに必要不可欠ながら生活を潤すものではない基本的な費用を節約している。生活の基本費用のひとつである食費を節約していると回答している人も多く、安全な食やたまに楽しむ食にお金をかける反面、無駄な出費はしない様子だ。また、品質の高いものを必要な分だけ買う、無駄なものや衝動買いはしないなどの回答も見られ、熟慮してモノ選びをしているようだ。

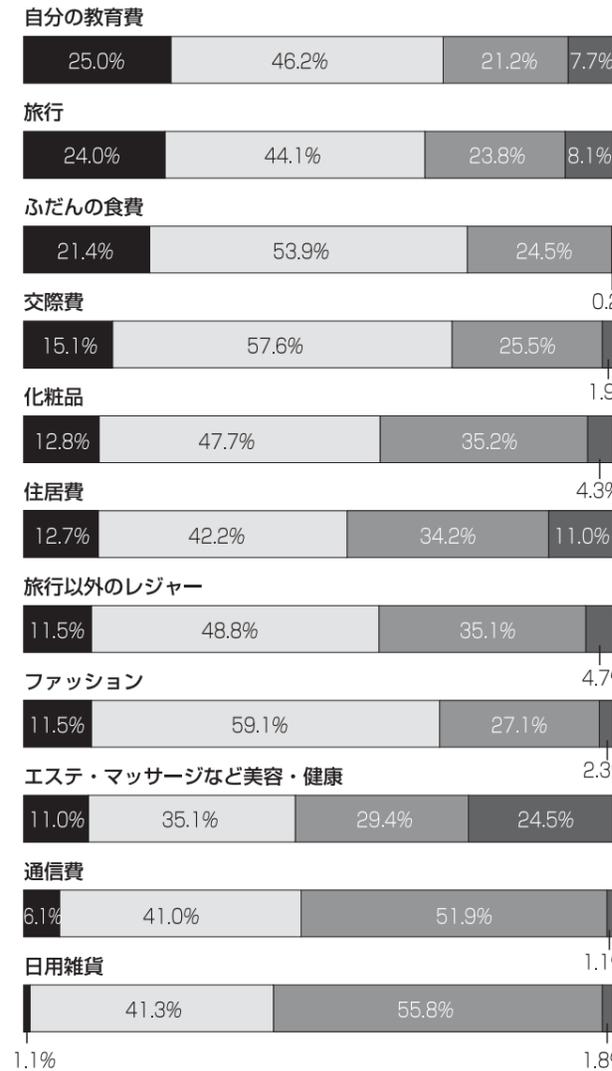
■夢も膨らむご褒美消費

全体の8割が仕事を持つイー・ウーマンリーダーズ、いわゆる「ご褒美消費」はどの程度しているのか、聞いてみた。この1年間に自分へのご褒美として買物や旅行などをした人は全体の3/4、そして全体の4割近くが10万円以上のご褒美を贈っていた(グラフ2、3)。贈ったものは海外旅行や温泉、ジュエリー・アクセサリ、時計、ブランド物のバッグ・靴、マッサージ・エステ、おいしい食事、お気に入りの映画のDVDなどなど、女性にとっては考えるだけでも楽しいお金の使い方である。これから欲しいご褒美では、高価な時計・ジュエリー・靴などの「物」を抑えて、旅行やエステ・マッサージなど時間消費型、それものんびりリラックスできるようなサービスに対する人気が高かった。

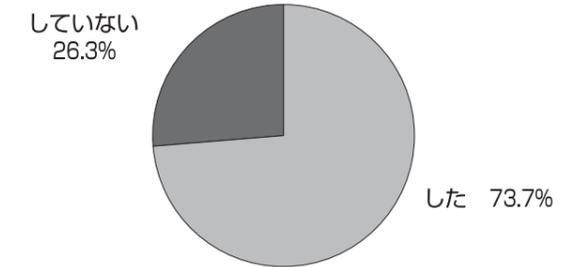
日々を仕事や家庭に忙しく過ごし、無駄なものにはお金を使わない彼女達。その分、時間もお金もかけたご褒美を、自分自身に贈りたいと願っているのである。

■お金をかける比重 (全体 n=837) <グラフ1>

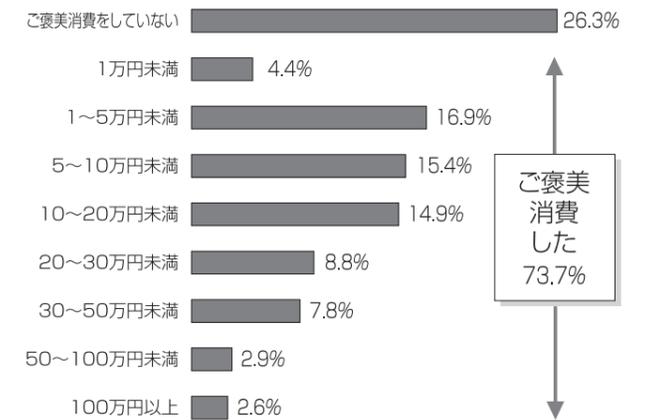
■:かなりかけている □:そこそこ ■:極力儉約 ■:使っていない



■この1年間に自分にご褒美として買物や旅行などをしましたか (全体 n=837) <グラフ2>



■ご褒美にかけた金額(1回あたり) (全体 n=837) <グラフ3>



<調査概要>

調査実施:2003年10月30日~11月4日
 調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
 対象:イー・ウーマンリーダーズ
 有効回答者数:837名

LEADERS DATA

